

各 位

杜 の 都 信 用 金 庫

平成 30 年度 決算状況（速報）について

杜の都信用金庫の平成 30 年度決算状況についてお知らせいたします。

【1】収益面について

◇ 業務純益は増益となりましたが、当期純利益は減益となりました。

(%表示は対前期比増減率)

	経常収益		経常利益		業務純益		コア業務純益		最終当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31 年 3 月	7,715	△1.1	974	△46.2	2,525	28.5	1,743	6.7	649	△50.6
30 年 3 月	7,804	△2.9	1,812	△2.0	1,964	△5.2	1,633	19.0	1,316	5.0

業務純益及び金融機関の本来業務の収益力を示すコア業務純益は増益となりましたが、経常収益が有価証券関係収益等の減少により減収となり、経常利益、当期純利益は与信関係費用の増加などにより減益となりました。

【2】業容面について

◇ 預金残高、貸出金残高ともに増加しました。

(%表示は対前期比増減率)

	預 金				貸 出 金			
	平 残		末 残		平 残		末 残	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31 年 3 月	495,894	7.1	527,605	2.6	332,922	6.1	341,727	0.1
30 年 3 月	462,801	7.4	514,205	14.1	313,604	20.7	341,316	14.0

預金は、懸賞付定期預金などの企画商品がご好評をいただいたことなどから、平残・末残ともに増加しました。

貸出金は、震災復興に向けた支援融資など、積極的に資金供給に取り組んだことから、平残・末残ともに増加しました。

【3】健全性について

◇ 地域金融機関として十分な健全性を維持しています。

	自己資本比率		不良債権比率	
31 年 3 月末	8.51%	0.38 ポイント上昇	2.72%	0.05 ポイント上昇
30 年 3 月末	8.13%	0.22 ポイント低下	2.67%	0.34 ポイント上昇

※不良債権比率は、金融再生法に基づき表記しております。

自己資本比率は、国内基準である 4%を上回っており、経営の健全性、安全性を充分保っております。

杜の都信用金庫は、「うれしいこと、一緒に。」を合言葉に、地域経済の活性化のために積極的に取り組んでまいります。